



応用地形判読士資格制度のご案内

応用地形判読士とは？

私たちが住んでいる地球の表面は、山・河・谷・平野・海などで形成され、変化にとんだ地形となっています。

地形とは、地表の高低や起伏の形のことをいいます。谷、平野、台地、丘陵、山地、山脈などは、私たちが日常的によく目にする地形です。地球の表面は、断層運動や火山活動等の影響で持ち上がったり沈み込んだりしています。さらに、そのようにしてできた地形面は、水の流れや風の影響により浸食されていきます。また、浸食によってできた土砂は、流水や重力的作用によって移動し堆積します。このようなさまざまな現象が原因となって多種多様な地形が形成されているのです。このようなダイナミックな地球の活動によって出来上がった地形を地形図や空中写真などを用いて、大地の成り立ちを“読み解く”作業が「地形判読」です。

「地形判読」は、関連産業界の技術者のみならず、普段の生活の場面でも役立つ技術です。（社）全国地質調査業協会連合会では、「地形判読」の技術を認定するための資格制度を創設いたしました。

試験内容

- 一次試験：地形判読に関する基礎知識及び専門知識を問う学科試験。
 - ① 多肢択一式：社会一般、地質/地形/判読に関する基礎知識
平地および山地の判読に関する専門知識 } (70問/3時間)
 - ② 記述式：平地と山地の2分野から各1問について記述 (2問/2時間)
- 二次試験：応用地形判読士として必要な技術能力を問う実技試験。
平地と山地のそれぞれ異なる地形図と空中写真を判読して、
 - ①判読図を作成し、②地形発達史を推論する。 (各4問/4時間)

受験資格と資格等の付与

区分	受験資格	資格等の付与
一次試験	受験資格なし	称号の付与： 応用地形マスターⅠ級またはⅡ級
二次試験	一次試験に合格し登録した者 (応用地形マスターⅠ級)	資格の付与：応用地形判読士

1. 試験実施時期

- 一次試験：原則として、試験は7月第二土曜日、全国10会場で実施します。
- 二次試験：原則として、試験は11月最終土曜日、東京都小平市で実施します。



2. 受験料・登録料（税込）

区 分	受験料	登録料
一次試験	12,600 円	8,400 円
二次試験	21,000 円	8,400 円

3. 更新制度について

- 応用地形マスターⅠ級、Ⅱ級資格者：更新制度は、ありません。
- 応用地形判読士資格者：5年毎に登録更新（CPDによる）が必要となります。

4. ご留意いただきたい事項

- ・一次試験の受験会場は、収容人数が限られております。そのため、受験申込みをお受けできない場合がありますことを、あらかじめご承知おきください。お早めにお申し込みください。
- ・一次試験の受験者には、事前学習用の e-learning（Web 上で勉強していただける専用のサイト）を用意する予定です。
- ・本資格検定試験は、原則として1年に1回実施いたしますが、状況によっては隔年の開催となる場合があります。

受験対象者の例

- 一次試験受験対象者
 - ① 地形や地質あるいは自然災害に関心のある方
 - ・ 自宅周辺の土地の情報を入手して判読したい方
 - ・ 地形や地質について学んでいる方や学んだことがある方
 - ・ 登山の際のルート選定等に役立てたいという方
 - ② 建設事業の計画や立案業務または防災業務（地すべり地域の推定等）に携わる官公庁の職員の方
 - ③ 関連産業（建設業、建設関連業等）に従事する技術者の方
⇒ 受験資格を設けておりません。どなたでも受験していただけます。
- 二次試験受験対象者
 - ① 高度な技術を用いて地形判読業務を専門に行っている技術者
 - ② 地形判読に関する報告書の内容を理解できる発注機関の職員の方
⇒ 事業の初期段階に地形を正しく解釈して地形条件を適確に把握して現地調査と相補すれば、調査・設計・施工・維持管理の各段階におけるリスクを回避し、結果として総合的な品質向上とコスト縮減が可能となります。地形判読に携わる技術者に求められる能力は、判読技術のみならず、広範な知識と経験および洞察力が必要とされています。



資格取得まで

受験／登録情報の公開

- ・4月上旬、全地連のホームページ上に公開します。
ダウンロードしてご使用ください。

受験料振込み
受験申込み

- ・4月中旬～5月中旬、全地連事務局で受け付けます。
〔郵送のみ〕

受験通知

- ・試験日のおよそ1ヶ月前に、受験票(受験番号/受験地など)
を受験者宛に郵送します。

一次試験実施

- ・7月の第二土曜日、全国10会場で実施します。

合格発表

- ・8月下旬、全地連のホームページ上で発表します。
受験者には、合否通知を郵送します。

<認定証>送付

- ・合格者には、認定証(応用地形マスターI級またはII級)を
郵送します。

応用地形判読士補
への登録申請

- ・応用地形マスターI級合格者で「応用地形判読士補」として
登録を希望される方は、登録申請が必要となります。
(受け付け期間：8月下旬～合格した年から4年先の10月中旬)



⊕ 応用地形判読士補に登録し【二次試験】を受験される方は、以下の手順となります。

- | | | |
|-----------|-----------------------|--------|
| ① 受験申込み | ・9月中旬～10月中旬 | 〔郵送のみ〕 |
| ② 受験通知 | ・試験日のおよそ1ヶ月前 | |
| ③ 二次試験実施 | ・11月の最終土曜日 | |
| ④ 合格発表 | ・翌年2月下旬 | |
| ⑤ 登録申請期限 | ・翌年3月末日 | |
| ⑥ 登録証の交付 | ・翌年4月 <応用地形判読士登録証>を交付 | |
| ⑦ 登録更新手続き | ・登録後5年毎に登録更新手続き | |

注) 上記の日付や期間は“原則”です。年により異なりますので、全地連のホームページでご確認ください。

本資格制度の運営体制について

- 運営団体 一般社団法人 全国地質調査業協会連合会
- 協力機関 本試験制度の運営に当っては、以下の機関に協力をいただいております。
 - ・独立行政法人土木研究所
 - ・独立行政法人産業技術総合研究所
 - ・一般社団法人日本応用地質学会
 - ・日本地形学連合
 - ・一般社団法人日本写真測量学会
 - ・財団法人全国建設研修センター
 - ・建設産業教育訓練協議会



《豆知識》

◆地形判読

地形判読に用いる主な技術には、「地形図の読図」と「空中写真の判読」とがあります。

■地形図の読図

○地形図は、地形の起伏状態を等高線で表現した地図です。

- ・読図には、多くの場合、国土地理院発行の 1/2.5 万地形図や 1/5 万地形図を使用します。
- ・最近では、航空レーザー測量による精密地形図を利用することもあります。

■空中写真の判読

○空中写真は、測量用航空機に搭載した航空カメラを用いて撮影します。このとき、航空機はあらかじめ決められたコースを、水平を保ちながら一直線に飛行します。

- ・空中写真は、レンズの中心から対象物までの距離の違いおよび写真の中心と周縁部との違いにより、画像に歪みが生じます。この歪みを標高データにより修正しさらに位置情報を付加した電子国土基本図“オルソ画像”が、整備されつつあります。
- ・空中写真は隣り合う 2 枚の写真に同じ位置が重複するように撮影するので、この重複部分を立体的に見ることができます。
- ・空中写真を立体視するため、判読には実体鏡を使用します。



国土地理院 HP より引用

■地形図の読図と空中写真の判読

○地形図の読図と空中写真の判読の目的は、共に『机上で地形情報を得る』ことです。

- ・地形図と空中写真の基本的性質を反映したそれぞれの特長があるので、そのときの必要に合わせて使うことが大切です。つまり、両者は相補の関係にある技術です。

★地形判読だけで正確な地形情報が得られるほど、自然は単純ではありません。現地踏査や地質調査によって、地形情報の精度および有用性を高めることが大切となります。

一次試験 多肢択一式 模擬問題

以下の写真は、河川周辺でみられる特徴的な地形を示したものである。
この地形の名称として適切なもの一つを選び、記号 (1)～(4) で示せ。

- (1) 天井川
- (2) 後背湿地
- (3) 河岸段丘
- (4) 自然堤防

正解 (3)



写真提供: 群馬大学

<お問い合わせ・お申し込み> 応用地形判読士資格検定試験 制度運営

一般社団法人 全国地質調査業協会連合会 事務局

〒101-0047 東京都千代田区区内神田 1-5-13 内神田 TK ビル 3F

Tel. (03) 3518-8873 Fax. (03) 3518-8876 URL <http://www.zenchiren.or.jp/>

2013年度（平成25年度） 第2回 応用地形判読士資格検定試験 実施について（お知らせ）

◎ 応用地形判読士とは

地形図や空中写真を用いて実施する地形判読では、地形を正確に把握し精度の高い判読結果を出すことが必要となります。また、防災等の観点から社会資本整備上求められる業務として、地形を構成する素材である地質を把握し、地形の種類と周辺地形との相対位置とを勘案して課題を解決することが求められています。つまり、地形判読に携わる技術者に要求される能力は、単に判読技術のみならず、地質を含む広範な知識と経験および洞察力が不可欠となっています。

“地形と地質が判る技術者”によって判読された地形情報の活用は、地質調査の精度向上に寄与するばかりでなく、脆弱な地質状況という特殊事情を抱える日本の建設事業の安全・安心に繋がるものであります。

こうしたことから、全地連では正確かつ精度の高い判読能力を有するとともに、地形リスクを判断できる応用能力を修得した技術者を認定する『応用地形判読士資格制度』を運営しております。

■ 全 般

	一 次 試 験	二 次 試 験
受験願書 受付け期間	2013年4月10日～同年5月13日	2013年9月10日～同年10月15日
試験日	2013年7月13日（土）	2013年11月30日（土）
試験地	札幌，仙台，新潟，東京，名古屋， 大阪，広島，高松，福岡，沖縄。 ※受験会場は収容人数が限られております。	全国建設研修センター （東京都小平市）
受験資格	な し	応用地形判読士補
受験料	12,600円（税込み）	21,000円（税込み）
合格発表	2013年9月10日（予定）	2014年2月24日（予定）
登録申請 受付け期間	2013年9月10日（予定） ～ 2017年10月中旬	2014年2月24日（予定） ～ 同年3月31日
登録料	8,400円（税込み） （I級合格者が応用地形判読士補へ登録するとき）	8,400円（税込み）

■ 資格等

- ▶ 応用地形マスター：一次試験に合格された方。得点により、I級とII級に区分されます。
- ▶ 応用地形判読士補：応用地形マスター I級合格者で“応用地形判読士補”として登録された方。
- ▶ 応用地形判読士：二次試験に合格された方で“応用地形判読士”として登録された方。

■ 登録更新（応用地形判読士）

△応用地形判読士資格の登録更新：資格登録後5年ごとに登録更新。

▽応用地形判読士補および応用地形マスターには、更新制度はありません。

★『受験から登録までの手引き』などは、4月上旬から全地連のホームページに掲載します。

◆ お問い合わせ先

一般社団法人 全国地質調査業協会連合会 事務局

〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-5-13 内神田 TK ビル 3F

Tel. (03) 3518-8873 / Fax. (03) 3518-8876 / URL <http://www.zenchiren.or.jp>

■ 試験の内容

△一次試験（学科試験）

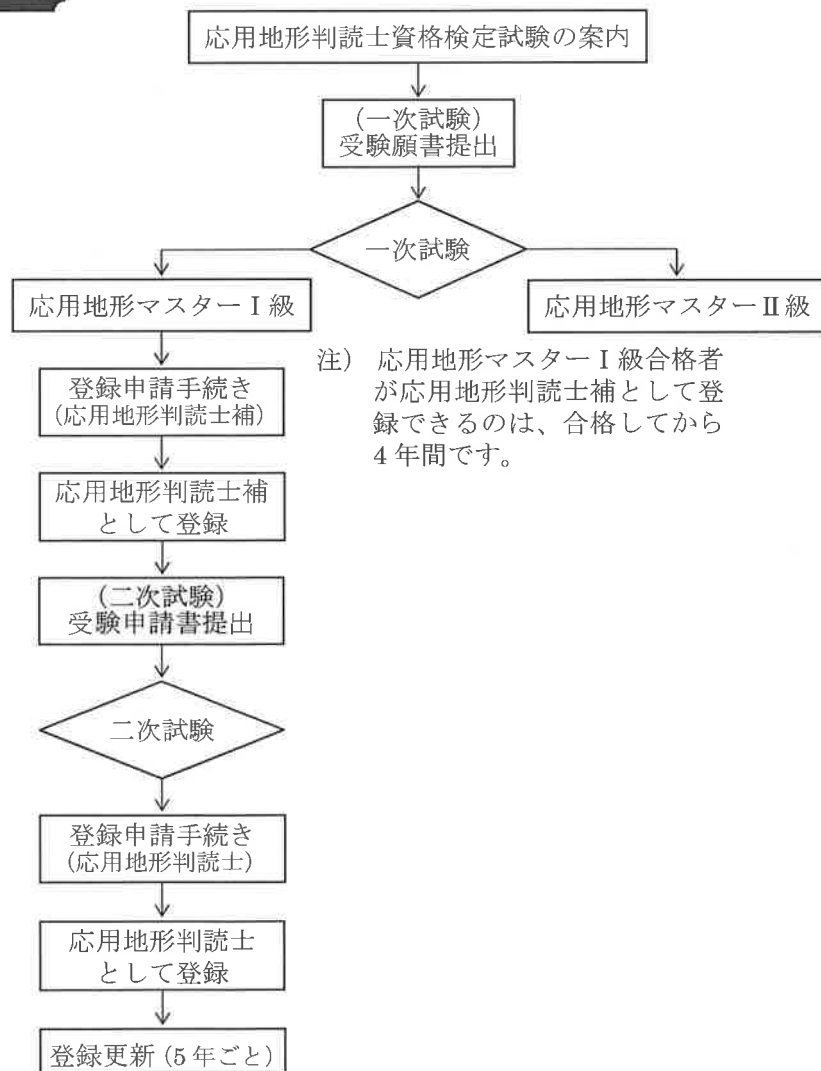
時間	解答方法	試験の内容	
9:30～12:30	択一式	地形・地質・地形判読に関する基礎知識	[50問] [50点満点]
		地形・地質・地形判読に関する専門知識	[20問] [20点満点]
13:30～15:30	記述式	地形判読に関連する地形・地質の専門知識 (例えば平地)	[1問] [50点満点]
		地形判読に関連する地形・地質の専門知識 (例えば山地)	[1問] [50点満点]

△二次試験（実技試験）

時間	解答方法	試験の内容	
10:00～12:00	記述式 (作図)	地形図・空中写真を用いた地形分類図等の作成 (例えば平地)	[1問] [100点満点]
	記述式	作成した地形分類図等に基づく防災等に関する論述	[1問]
13:00～15:00	記述式 (作図)	地形図・空中写真を用いた地形分類図等の作成 (例えば山地)	[1問] [100点満点]
	記述式	作成した地形分類図等に基づく防災等に関する論述	[1問]

※空中写真判読には、実体鏡をご使用いただけます。

資格制度の全体フロー



全地連は、地質調査技術の向上による社会貢献を目指す、全国の地質調査専門業者で組織された一般社団法人です。